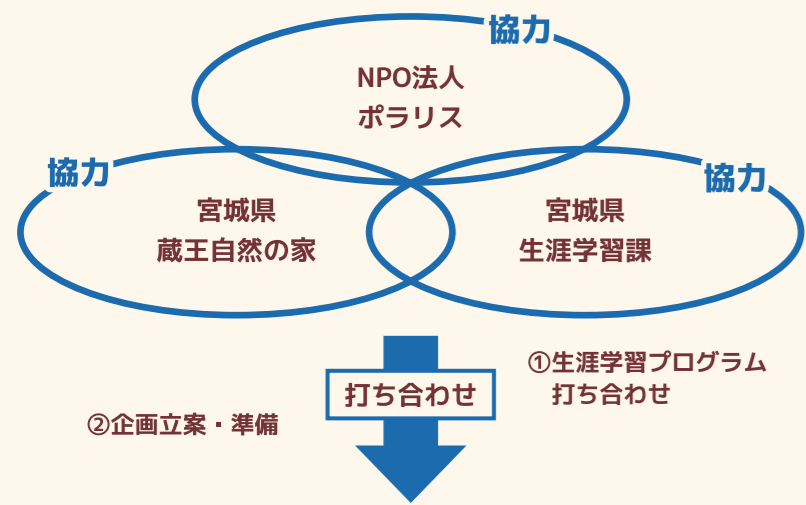


様々な連携モデル



宮城県の社会教育施設を会場に、障害者団体が、宿泊・自然体験を実施しました。

<蔵王自然の家より>

日常生活から離れた蔵王の雄大な大自然の中で学びや直接体験活動は、老若男女問わず主体性や協調性、社会性、また何よりも人として「心豊かに生きていく」ために必要な力を養う上でとても重要であることを我々所員も再認識することができました。

<参加者より>

নিজマスつかみは難しかったけれど、たのしかった。ベッドメイキングはやり方がある、同室のスタッフに聞きながら布団をたたんだ。

塩竈市在住の漫画家・ひが菜さんを講師に迎えて、生涯学習施設「ふれあいエスパ塩竈」で開催しました。実際の漫画を描く道具を並べ、漫画の描き方としてキャラクターづくり、セリフの入れ方などを学びました。

<塩竈市生涯学習課より>

障害のある人も参加しやすい事業にするための工夫や合理的配慮について助言をいただき、行政としての視点だけでは不足している部分を補っていただいたことで、障害の有無に関わらない環境の提供につながったと感じています。

<参加者より>

講師の先生にいろいろ教えてもらって楽しかった。

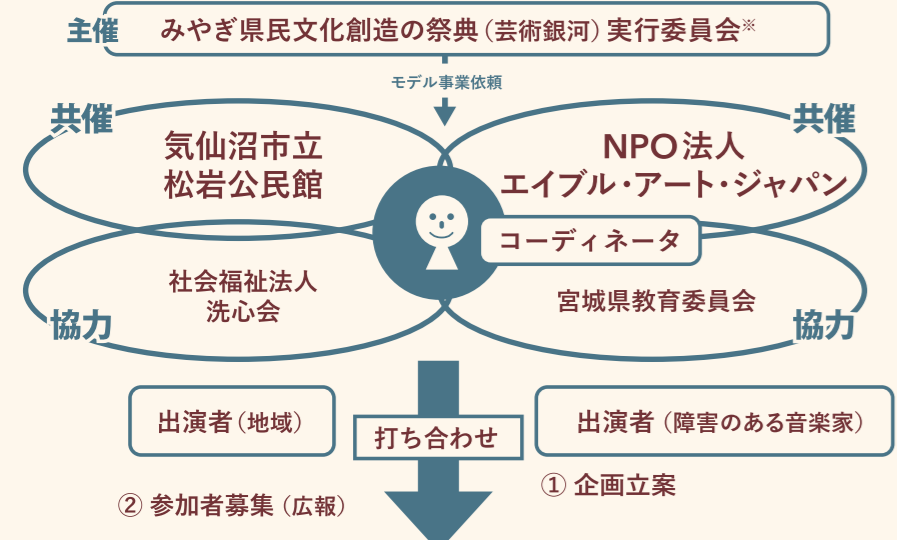
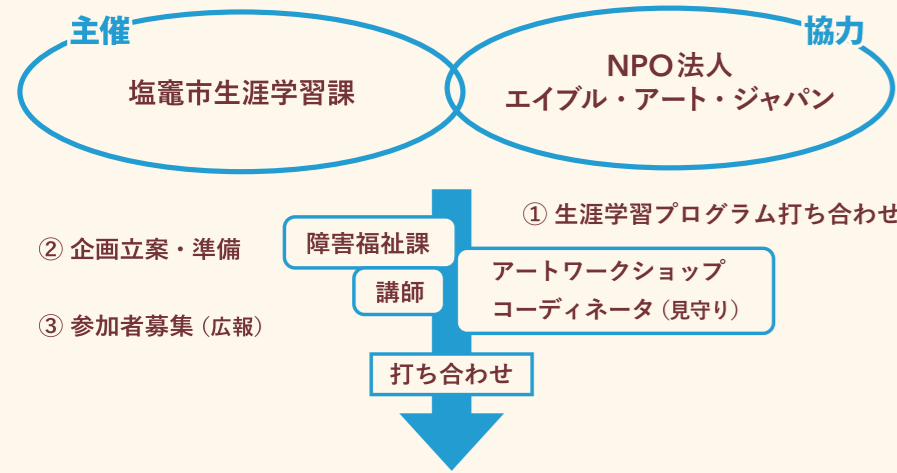
公民館と音楽を軸に、コンサートを企画運営しました。ゲストにフレンズドリーム（視覚障害のある佐藤厚氏、利恵子氏によるアコーディオンと歌唱）、ハイブリッジーズ（気仙沼発のファミリーバンドで昭和歌謡と気仙沼を題材としたオリジナル曲）を迎えました。

<松岩公民館より>

「公民館」は誰もが気軽に行ける施設であることを多くの方に感じて頂けたと思います。

<参加者の声>

みんなで音楽を楽しむことができました。しぜんに涙が出て、感動しました。



※宮城県や県内文化関係団体等で構成し、宮城らしい創造的な文化芸術圏の創出を目的とする団体

(1) 目的

障害者の生涯学習について県行政機関の関係課、福祉法人、障害者スポーツ協会、公民館等関係機関と連携するためコンソーシアムを構築し、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指すために、障害者が地域の一員として学べる学習プログラムを開発し、学びの場を提供することを通じて、社会参加できるような体制づくりを推進する。様々な関係機関を連携させ、それぞれの持ち味を活かしながら、一体的に取り組むことで、就学時から学校を卒業しても学び続けることができるような、持続可能で循環できる仕組みをつくり、推進する。

(2) 事業内容

- ① 連携コンソーシアムの設置
- ② モデル事業の実施
- ③ 研修会・共生社会コンファレンスの実施

宮城県教育庁生涯学習課生涯学習企画振興班
住所：〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本庁三丁目8-1
電話：022-211-3653 FAX：022-211-3697
E-mail:syogaks@pref.miyagi.lg.jp

学びを通じたみやぎの 共生社会推進事業

令和6年3月
宮城県教育委員会

住んで楽しい・学んで楽しい・関わって楽しい私たちの地域

第36次
宮城県社会教育委員の
会議意見書より

障害の有無にかかわらず、
誰もが安心して暮らせる
「地域」

事業実施における今年度のキーワード
障害者の生涯学習について 知る・気付く

学校を卒業しても
学び続けることができる
持続可能な「仕組み」

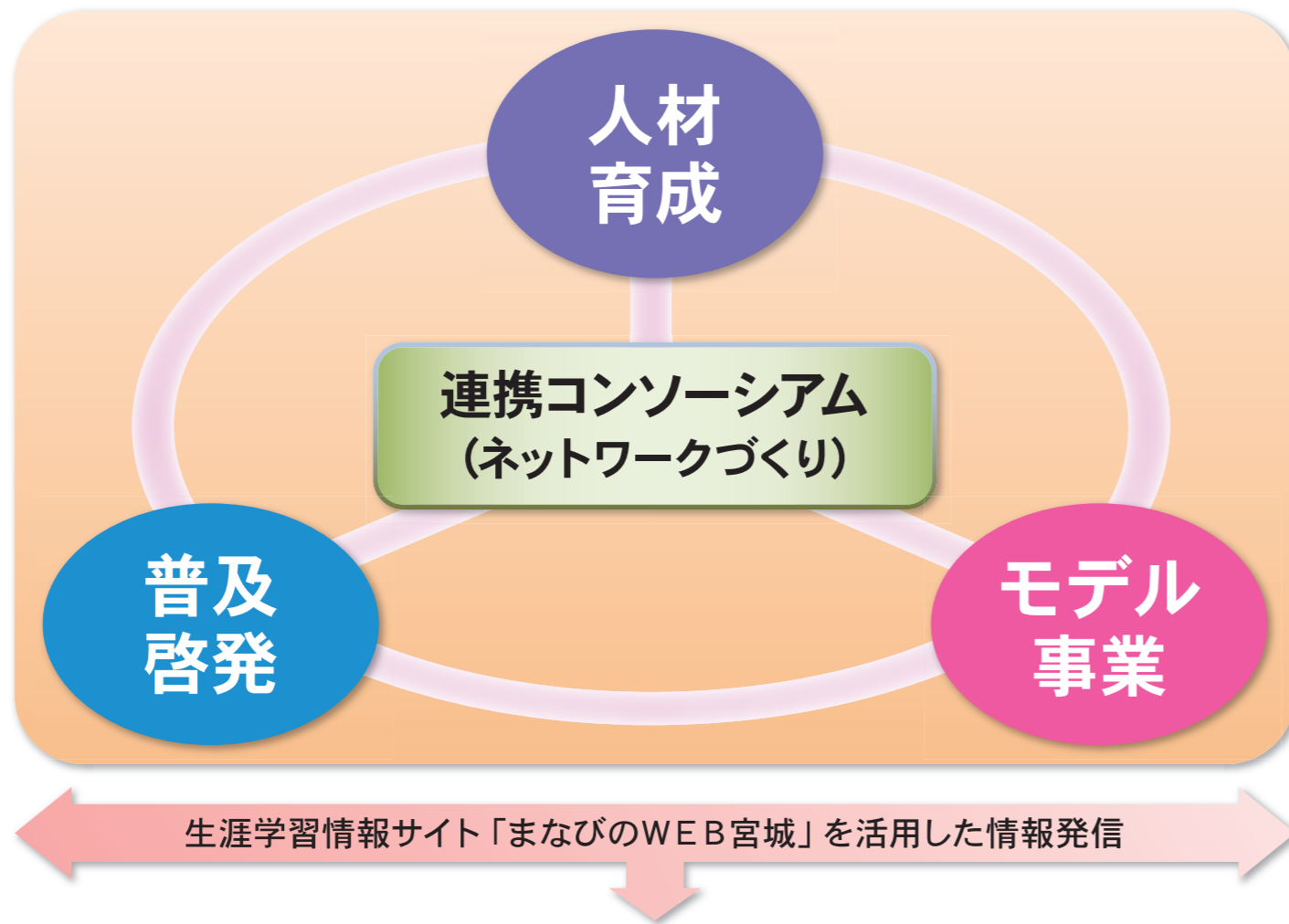
ネットワークと連携

職員研修
「みんなで考えよう 共生社会ってどういうこと」
共生社会について、講義や体験を通して考える



「共生社会について考える」
企業と地域との連携の紹介

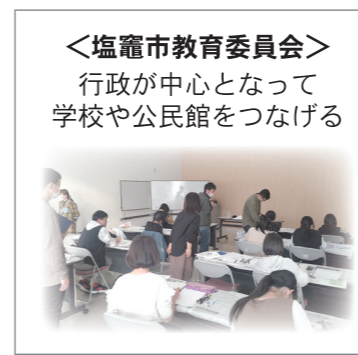
＜参加者の声＞
○比較的縦割り行政がまだ多い中でそのような垣根を越えて今回のような学びをもっと多くの生涯学習、社会福祉、公民館に携わる職員にも一緒に参加して欲しいと思った。
○今回のような研修に参加をして、まずは知ることが大切だと思いました。
○各団体が自分たちの強みを活かして連携していること、そして、それぞれが自分ごととして取り組んでいるという点が、うまく連携していくコツであることを学びました。



・学校在学中から地域とかかわったり、様々な体験的な活動を味わう



・公民館が中心となって、地域や学校をつなげる
・社会福祉協議会の行事を地域の方と共にやる



＜県立美術館との連携＞
美術館が保有するレプリカを活用したワークショップ
「見えない人と見える人とが一緒に作品を鑑賞して考える」
○宮城県美術館



＜コンソーシアム委員の連携＞
コンソーシアム委員であるおやじの会が主催したイベントで作成した七夕飾りを福祉作業所が再利用してアート活動につなげていく



＜県障害福祉課との連携＞
ダイバーシティを考えるボードゲーム
高校生が考案し開発した「IROIRO」を実際に体験



「共に学び、生きる共生社会コンファレンスinみやぎ」
体験やワークショップ等を通じて、地域と共に学ぶ、体験する、かかわることについて考える機会とする



＜参加者の声＞
○様々な立場の方の現状や意見や考えを交流できたのが良かった。
○障害のあるなしに関係なく、共に同じ社会で生きていくために、協力しあって生きていくことが大切だと改めて感じました。
○NPOや行政、学校等と一体になって取り組むことで共生社会が広がっていくのはまさにその通りだなと感じました。
○障害のある方の生活充実のために、今日話題となったことが、たくさんの地域で実現できるようにしていきたいと思いました。

＜県立自然の家＞ 各県立自然の家での取り組み

